

クセントスルノ形勢ヲ見ルニ至レリ痛歎スヘキ極ナリ

第四 將來我國ノ輸出ハ果シテ増進スヘキヤノ問題ニツキ考慮スルニ生絲、絹物、茶、花筵ノ如キ日用消費品ニ屬スル分ハ増進ノ見込アルヘシト雖モ其ノ他ノ商品ニ至リテハ「好奇心」ノ結果外國市場ニ賣レ行キタルモノナルヲ以テ此種ノ商品ニツキテハ將來歐米トノ貿易ニ多大ノ望ミヲ屬スヘカラス南米中智國亞國及ヒ伯國ハ尙ホ多小ノ需要増加ノ見込アルヘシ何トナレハ此等ノ國人ハ日本ノ珍奇ナル商品ニ接スルコト日尙ホ淺ケレハナリ

然レトモ日用ノ消費品ニ屬スル我輸出品ノ前途ハ好望ナリ南米ニモ販路ヲ擴ムルヲ得ハ又歐米ニ於ケル需要モ盡クルコトナカルヘシ故ニ今後製造家ハ「スヘテ」日用品主義ヲトリ歐米及南米ニ對シテハ勿論東洋ノ市場ニ對シテモ一層販路ノ擴張ヲ期セサルヘカラス

我國人ハ先ツ東洋市場ニ於テ彼歐米人ト競争スルコトヲ以テ其ノ第一ノ要義トセサルヘカラス蓋シ我國ニ於テ輸入防遏ノ見込ヲ以テ製造シタル作品ハ以テ東洋市場ニ供給スルヲ得ヘク又我國ノ工藝家ノ手腕ハ彼等東洋大陸國民ノ嗜好ヲ左右スルニ於テ十分ナル力量アルト信スルヲ以テナリ將來ノ日本ノ商工業ノ發達ハ先ツ歐米ノ東洋市場ニ對スル覇權ヲ動カスヲ以テ第一義トシ同時ニ運轉業ノ大發展ヲ圖リ日本ノ船舶ヲ以テ歐米(南米ヲ含ム)及東洋間ノ交通上ノ鎖鑰ヲ占有スルニ努メサルヘカラス

第五 日本商業教育ヲ一層振作セサルヘカラス

我國ハ商品ニ乏シキコト前段述フルカ如シ故ニ將來輩出スヘキ我日本ノ商人カ我日本ノ生産品ノミヲ取扱ハントスルハ誤レリ目下現存スル商人ノミニテモ既ニ商人ノ數多キニ過クル位ナリ將來此方面ニ新來ノ商人入り來ルモ新事業ナキノミナラス結局一騎打ちヲ増進シ「共倒レ」ヲ多クスルノミナリサレハ將來ノ商人ハ海外事業ヲ以テ其唯一ノ目途トセサルヘカラス第一ニ東洋市場ノ商權ヲ我ニ收ムルコトヲ努メ進シテ歐米ニ打テ出テ歐米ノ商品ヲ以テ逆ニ東洋又ハ歐米人ト商業ヲ爲スコトヲ試ミサルヘカラス此ノ方針ニシテ誤リナシトスレハ我實業教育ハ第一「紙幣的人物」ヲ送ラサルコトニ注意セサルヘカラス紙幣的人物トハ國內ノミニハ通シテ海外ニハ通セサルノ人物ヲ謂フナリ將來海外ニ出テハ唇シカラサル人物ヲ出ス爲メニ執ル可キ事項左ノ如シ

1 商人ハ紳士タル完全ナル性格ヲ具備スルニ非サレハ成效セサルコトヲ深ク實業ニ志ス少年ノ頭ニ銘セシムルコト

2 此ノ紳士ハ將來ノ對手歐米人ニ勝ルノ識見ヲ有シ交際ニ巧ニシテ萬事歐米人ト共和シ又同化シテ事ヲ爲スノ資質ヲ要ス

3 德育ニ次キテ必要ナル語學ノカヲ一層充實セシメ外國ノ事情ヲ出來得ル丈ケ明カニ知ラセシムルコトヲ努メサルヘカラス

4 實業學校ノ教官及生徒ヲシテ少クモ上海香港ニ修學旅行ヲ爲サシムルコト之レカ爲メニ國庫又ハ政府ハ幾分ノ補助ヲ供スルモ無益ノ支出ニ非サルヘシ

5 日本ノ國力ノ實際及生産國トシテハ先進國ニ比シテ劣等ノ位置ニ在ルコトヲ明瞭ニ了解セシムルコトヲ勉メサルヘカラス之レ海外事業發展ノ第一要因ナリ

第六 移民殖民事業ハ等閑ニ付スルヲ得ス

北米合衆國及墨國移民ハ當分之ヲ禁止制限スルハ止ムヲ得サルヘキモ將來家族移民ヲ南米ニ送ルコトハ引キ續キ適當ノ方法ヲ立ツルコトヲ考慮セサルヘカラス智利ニハ今回公使館ヲ置カレタルモ亞國ニ對シテハ未タ外交上ノ交通ナシ然ルニ亞國ニハ日本ノ商人多ク入り込ミ居ルノミナラス南米太平洋沿岸ノ共和國トシテハ伯國ヨリモ其位置或ハ高カラン又ウルグアイ國ハラ、ブラタ河口ニ在リテ亞國首都ノ咽喉ヲ扼スルノ位置ニ在ルモノニシテ日本ノ商品ハ多ク之ヲ通過シ現ニ日本ノ商人モ入り込ミ居ルヲ以テ同時ニ通商條約ヲ結ヒ少クトモ名譽領事ヲ置クノ必要アリ又亞國ニハ專任領事ヲ置カルルコトヲ希望セサルヲ得ス其他伯國サン、パウロニハ已ニ一千以上ノ日本人入り込ミタルヲ以テ專任領事ヲ置クノ急ナルヲ見ル要スルニ移民及殖民地トシテ將來日本人ノ海外ニ於ケル發展ヲ圖ルニハ滿韓以外ハ當分南米ヲ措キテ他ニ之レナキヲ以テ政府ハ之ニ對シ豫メ北米西岸ニ於ケルカ如キ結果ヲ繰リ返ササルコトヲ努メサルヘカラス

第七 日本國內ニ於ケル消費ハ當分之ヲ減制スルノ方針必要ナリ例ヘ伯國ヨリ珈琲ヲ日本ニ輸入スル

コトハ兩國貿易上ノ見地ヨリ云フトキハ必要不可缺モノナルモ珈琲カ日本ニ相當販賣セラルルニ至リ假リニ國民一人平均一日五厘ヲ餘計ニ消費スルモノトスレハ一人ニ付一年一圓八十二錢五厘ナレハ之ヲ飲用スルモノ五、〇〇〇萬人ノ半數トスルモ一年四千五百六十二萬五千圓ノ輸入超過ヲ來シ之ヲ償フヘキ他ノ生産物ハ珈琲ノ國內消費ニ原因シテ發生シ來ラサルナリ

伯國下ノ貿易ハ歡フヘキモカ、ル消費品ノ輸入ハ日本ノ國家經濟ノ堪ユル所ニ非サルニ似タリ勤儉貯蓄教理ハ實ニ經濟上有力ナル根據ヲ有スト云フヘシ然レトモ我國民ハ余リニ欲少ク所謂『消費ニ甘ンスル』ノ風多クシテ經濟向上ノ考ナキハ國家ノ爲欣フヘキコトニ非ス一般方針トシテハ『正當ナル慾張リ』主義ト『勤勉企業』ノ國風ヲ振興セシムルコトハ一日ヨリモ急ナリトス然レトモ又一方ニ不生産的ノ消費ヲ増進セシムルコトハ可成之ヲ避ケサルヘカラサルナリ一方ニ貿易ノ振興ヲ圖リ他方ニ於テ消費ヲ避ケシムルハ一見予盾ノ感アリト雖トモ此ノ間白ラ中心點ノ存スアルヲ信セムトス

第八 日本ノ貿易ハ一時長足ノ進歩ヲ爲シ輸出入共ニ増進セリ將來輸入ノ増加ハ無限ニ之ヲ希圖シ得可シ(人口ノ増加ト消費ノ増進ニ依リ)ト雖トモ日本ヨリノ輸出ハ是レ以上如何ニシテ増進セシムヘキヤハ實ニ容易ナラサルノ問題ニシテ將來ハ原料ヲ盛ニ外國ヨリ輸入シ低價ナル勞働ヲ以テ工業

ヲ起スヨリ他ニ方策ナシ其ノ市場ハ先ツ東洋ニ求ムヘキコト前ニ述ヘタルカ如シ

第九 英國ガ世界ノ債權國タルコトハ予モ聞ク所ナリシカ中米南米ニ至リ其ノ實況ヲ見其ノ富力ノ大ナルニ更ニ一層ノ感歎ヲ加ヘタリ而シテ南米諸國カ英國ノ國債ニ依リ其ノ財政上多大ノ犧牲ヲ國債利子トシテ拂ハサルヘカヲサルモ亦目睹シタル所ナリ而シテ國內金紙ノ差ハ智國伯國ニ於テ尤モ其ノ甚シキヲ見之レカ爲メニ生スル弊害不可測ナルヲ實驗セリ國債及貨幣制度ノ確立ハ國內ノ商工業ニ多大ノ影響ヲ及スヘキ實例ハ南米ニ於テ之ヲ見ルコトヲ得ヘシ

土地廣ク人少ク無盡藏ノ富源アリテ之ヲ開發スヘキ勞力ト勤勉心ニ缺ク是ニ於テカ北歐有爲ノ冒險家ト企業家ハ漸次其ノ羽翼ヲ南米ノ大陸ニ展ヘントシ北米合衆國モ亦巴拿馬運河ノ開通ト共ニ愈々其ノ勢力ヲ南進セシメントス南米ハ今ヤ亞米利加及支那大陸ト共ニ世界ノ三大市場ノ一トシテ有爲ナル企業家ノ來リテ經營スルヲ待テツ、アリ

我國土地小ニ人口多ク富源ハ大ナラサルモ然カモ國人ハ勤勉ニシテ且ツ企業心ニ富メリ南米ト我國トハ多クノ點ニ於テ顯者ナル對象ヲ爲セリ他日直通航路ノ南米ニ開クルノ機アルニ於テハ資產アリ信用アリ且ツ常識アル商工業ノ彼地ニ渡航シ親シク其ノ實狀ヲ調査シタル後商ニ工ニ將タ農ニ有望ト認ムル事業ニ著手セラレンコトヲ希望セサルヲ得ス唯夫レ海外ノ起業ハ決シテ内地企業ノ如ク容易ナルモノニ非ス所謂不撓不屈ノ精神ヲ以テ千難萬艱ヲ排スルノ用意アルヲ要スルハ實ニ南米ニ對スル起業ノ

ミニ非サルナリ

南米調査資料 終

4907
2
12349

明治四十四年八月十五日印刷
明治四十四年八月十七日發行

生產調查會

印刷者 松本魁
東京市芝區濱松町一丁目七番地

印刷所 會社東京國文社
東京市京橋區宗十郎町十五番地





